

2010年5月24日

新住協総会参加レポート

(株)北海道住宅新聞社

編集長 白井 康永

<http://www.iesu.co.jp/column/>

5月20日に札幌市内で所用があったため、5月21日の朝仙台に移動し、松島で新住協の全国総会に参加しました。

総会には間に合いませんでしたが、鎌田紀彦先生による基調講演も半分は聴くことができました。

パッシブハウスジャパン、あるいはパッシブハウス、あるいは森みわさんとの関係を前向きに維持していきたい的なことが、鎌田先生から報告されたことが印象に残っています。この点について大賛成しております。むしろ将来的にはいっしょに活動することが両会の目的を達成するために最も良い方法ではないかと思えます。

専門紙の記者としては、住宅改善を社会運動としてどのように広がりをもたせていくか、という点と、新しい技術に注目しておりました。

興味を持ったのは、開口部の熱貫流率と取得熱をもう少し細かく見るという点です。この点については、再度鎌田先生のお話を聞きたいと思えます。

住宅改善運動については、冒頭に触れましたように、パッシブハウス japan と協力し、相乗効果を上げることができれば、いままで以上の普及速度が実現できるかもしれないと思えます。期待しております。

21日は住宅見学班でした。8時からバス移動。バスの最後部で参議院議員・中村哲治さんといっしょでした。中村さんがこれまでやってきた住宅分野での取り組みや、最近勉強しているという林業再生、そして目下のお仕事である法務省での担当などを聞きました。断熱化による住環境改善と産業面の効果、CO2削減などについて理解し、政策を真剣に実現しようとされております。

見学した住宅では、南面の引き違い窓を外付けした家があり、ある工務店さんは「軒の出が確保されていれば、この納まりもアリだと思う。採光面で有利であることは確かだし」とおっしゃっていたことが印象に残っています。

以上